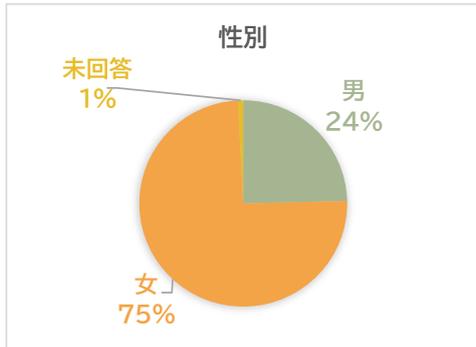


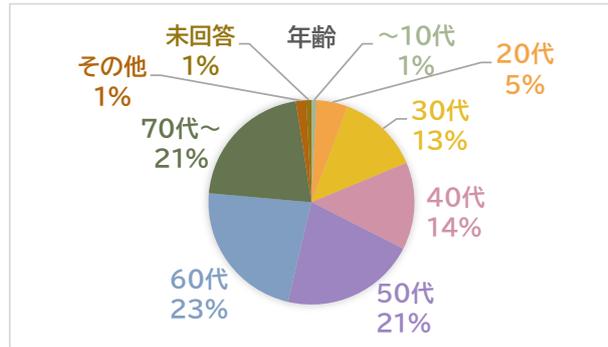
## R5年度 食と放射能に関するアンケート調査 【結果】

回答期間：6月1日～11月30日

回答者：123名

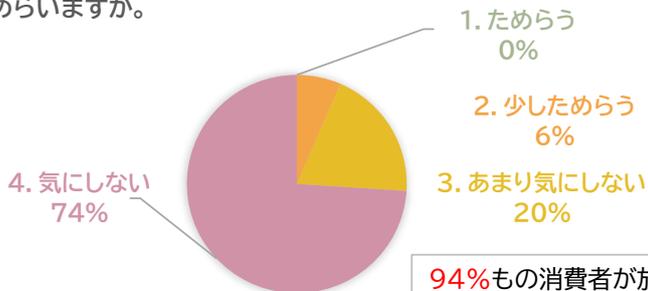


回答者の4分の3が女性、4分の1が男性という結果に。  
女性の方が、食・放射能に関心が高いことがうかがえる。  
⇒女性をターゲットにした安全性の周知、働きかけが大事。



回答者の年齢は、10～20代は6%と1割未満、30～40代が各1割程度、併せて3割未満ほど、50、60、70代～がそれぞれ20%程度で6割以上を占める。

問1 現在、放射性物質を気にして福島市産農産物の購入をためらいますか。



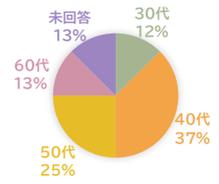
「少しためらう」人の居住地



「少しためらう」人の性別



「少しためらう」人の年齢

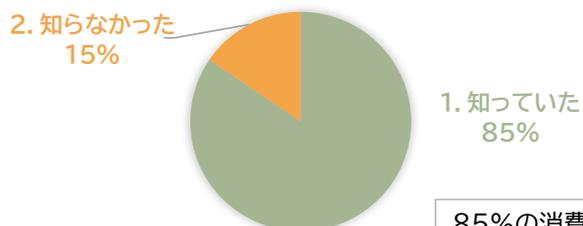


94%もの消費者が放射性物質を理由に「気にしない・あまり気にしない」と回答。

ためらう方は0%という結果も見ると、放射性物質を気にしている方はかなり少なくなってきたことが分かる。

一方、「少しためらう」人の内訳をみると、約9割が女性、年齢は様々だが、40～50代が6割以上を占め、これらの人々へ安全性を発信することが重要だとうかがえる。居住地は「福島県」が最も多かった。

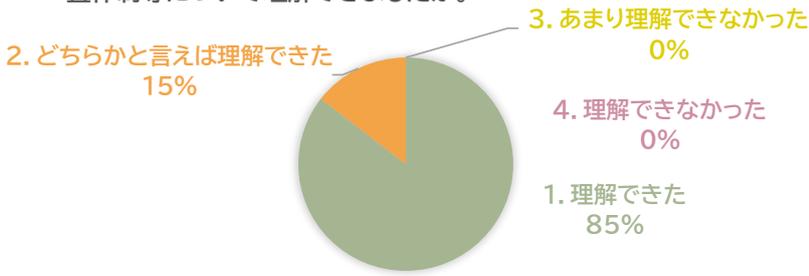
問2 福島市産農産物を出荷するにあたり、放射性物質の検査体制がとられていることをご存じでしたか。



85%の消費者が検査体制を理解している。

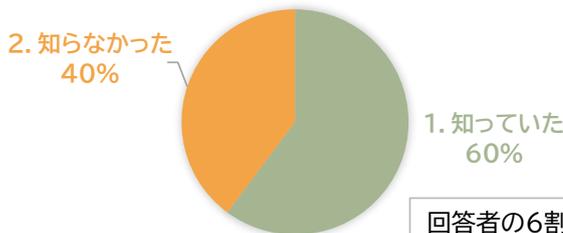
一方、1～2割の人は検査体制を知らないという結果から、継続した情報発信が必要であることがうかがえる。

問3 パンフレットをご覧いただき、農産物の出荷にかかる検査体制等について理解できましたか。



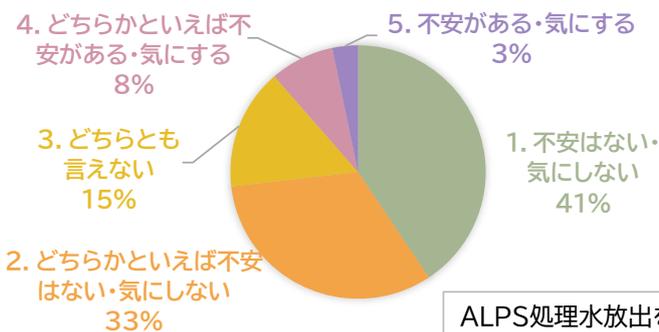
パンフレットの説明により、**100%**の消費者が農産物の検査体制について理解できた・どちらかといえば理解できたとの結果になった。このことから、分かりやすいパンフレット等による周知方法が有効であることが確認できた。これからも正しい情報発信により、風評払拭を図っていく。

問4 「ALPS処理水」をご存じでしたか。



回答者の6割がALPS処理水を知っている一方、**4割が知らない**という結果になった。

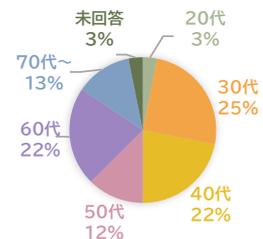
問5 ALPS処理水の放流をどのように思いますか。



「どちらとも言えない」「どちらかといえば不安がある」「不安がある」人の性別



「どちらとも言えない」「どちらかといえば不安がある」「不安がある」人の年齢



ALPS処理水放出を

「気にしない・どちらかといえば気にしない」は74%、

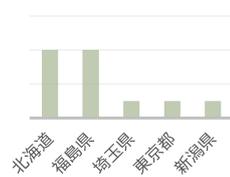
「どちらとも言えない」は15%、

「不安がある・どちらかといえば不安がある」は11%という結果になった。

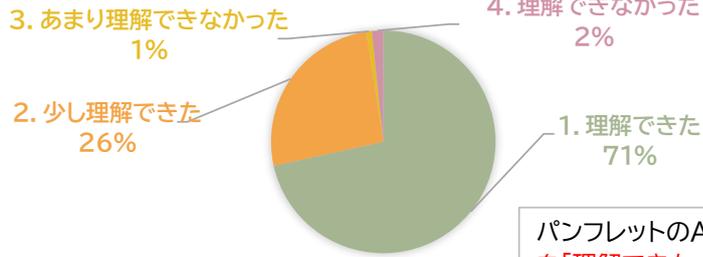
問1にて、放射性物質に関して気にしている人は6%程度に対し、**ALPS処理水の放流に関しては1割以上の方が気にしている**ことが伺える。また、**1~2割は判断が来ていない**様子がうかがえる。

「どちらとも言えない」「どちらかといえば不安がある」「不安がある」と回答した人の性別は、女性が8割を占め、年齢は30~70代がほぼ均等にある。居住地は、「問1」に同じく北海道・福島県が多く、他には埼玉県・東京都・新潟県などであった。

「どちらとも言えない」「どちらかといえば不安がある」「不安がある」人の居住地



問6 パンフレットをご覧いただき、「ALPS処理水」の安全性を理解できましたか。



パンフレットのALPS処理水の説明により、**97%もの人が安全性を「理解できた・少し理解できた」と回答している。**  
**正しい情報を知ることで、正しい判断をすることが出来、過度な不安を取り除くことが期待できる。**  
これらのことから、**今後も継続して安全性や正しい情報を発信していく必要がある。**

